

児童生徒の個別的な人権課題に対する理解を促す授業モデルの研究実践事例

1. 基本情報

○市町村名

築上町

○学校名

築上町立築城小学校

○学校の概要

(平成31年1月22日現在)

14学級(うち特別支援学級2学級) 全児童数: 331名

○学校のURL

<http://www1.bbq.jp/tsuiki-es/index.html>

○調査研究のテーマ

「外国人の人権と異文化」の理解を育む授業モデルの開発
～地域の交流事業を活用した学習展開の工夫を通して～

2. 調査研究のテーマを設定した背景

築上町では、平成20年から平成23年にかけて中国との国際交流事業が行われてきた。その中で本校は、薛阜中心小学校と姉妹校提携をし、毎年数名の児童が訪問団として参加していた。

しかし、平成24年から平成27年の間、この交流は中止されていた。そのため、大半の在校生は、本校が薛阜中心小学校と姉妹校関係にあることを知らない状態であった。そのような中、平成28年に国際交流事業が再開され、本校から2名の児童が中国に訪問した。交流後の感想では、「マスメディアなど、1つの情報だけを見るのではなく、様々な方面から見るのが大切であると感じた。」といった物事を多面的に見ようとする意欲・態度が感じられた。しかし、この国際交流事業の成果が一部の限定された児童だけのものとなっている。そこで、本町で行われている国際交流事業を活用し、「外国人の人権と異文化」の理解を図るとともに共生しようとする態度を育む学習を効果的に行っていくこととした。

また、本校には外国にルーツがある児童が在籍している。外国をルーツとする児童が自分の能力を十分発揮するためには、よりよい人間関係が基盤となる必要がある。本研究を通し、この基盤を充実させるとともに、多様性を受け入れるための人権に関する知的理解と人権感覚を育成することで、外国にルーツがある児童をはじめとするすべての児童の自己実現が図れると考えた。

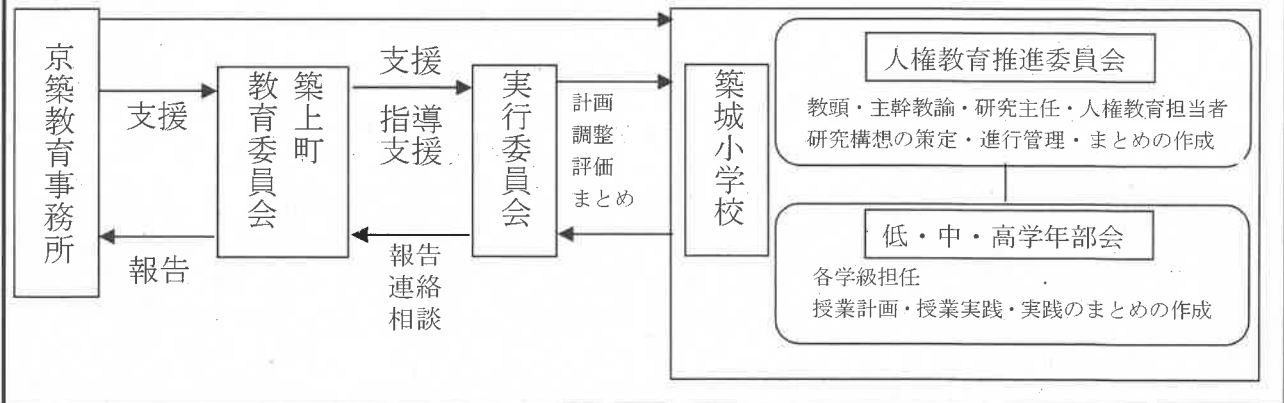
平成27年度より築上町教育委員会委嘱の研究発表会を実施し、主題研修として「アクティブ・ラーニングの考えをふまえた授業づくり」の在り方を検証してきた。研究対象は国語、算数、理科、社会などの教科を中心とし、「主体的・対話的で深い学び」についての共通理解を図ることが目的である。

本研究を通して育てたい資質・能力である主体性や協働性は、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」に示している人権教育を通じて育てたい資質・能力の人権感覚(価値的・態度的側面、技能的側面)と重なる。さらに、指導内容や指導方法についても「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」に示している人権感覚育成の効果的な指導内容及指導方法である「自分で『感じ、考え、行動する』主体的・実践的な学習」であり、「協力」「参加」「体験」を重視した指導方法と重なる。

これらのことを踏まえ、本校が目指す授業づくりの深化と児童の人権に関する知的理解と人権感覚育成のために、総合的な学習の時間や特別活動、道徳科を研究対象とし、我が国の文化や異文化のよさや多様性にふれる体験活動を位置付ける「外国人の人権と異文化」の理解を深めると同時にねらいに応じた具体的な指導の在り方を検証していくこととした。

3. 調査研究の推進体制

調査研究の実施主体となり、全体計画策定及び必要な調整を行う「築城小学校人権教育研究指定校実行委員会」を設置する。実行委員会の構成は、築城小学校教職員、築上町教育委員会担当職員、担当指導主事とし、会長は学校長とする。



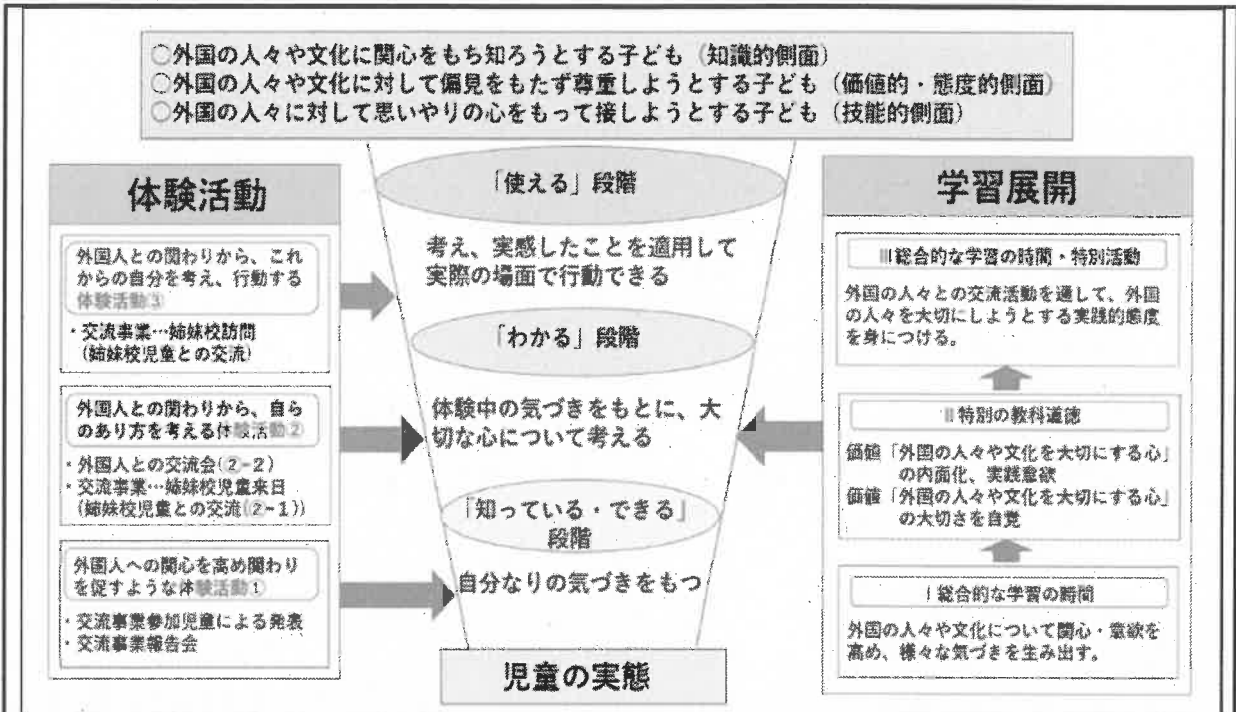
4. 調査研究の内容等

○現状の分析と課題

築城小学校には、外国にルーツのある児童が在籍しており、その児童の自己実現を図るためには、よりよい人間関係が基盤である。よりよい人間関係を築くために、外国にルーツがある児童をはじめ、すべての児童に、物事を多面的に見ようとしたり、多様さを受け入れ、共生しようとしたりする意欲や態度の育成を図りたい。

このような課題を踏まえ、人権教育指定校事業の研究でねらいとする「外国人の人権と異文化を理解し、共生しようとする態度の育成」に向け、外国人に関する3つの体験活動と特別活動、総合的な学習の時間、道徳科との関連を図った学習を展開することとした。また、具体的な推進にあたっては、本校の主題研修に関わる「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりと関連づけていくこととした。

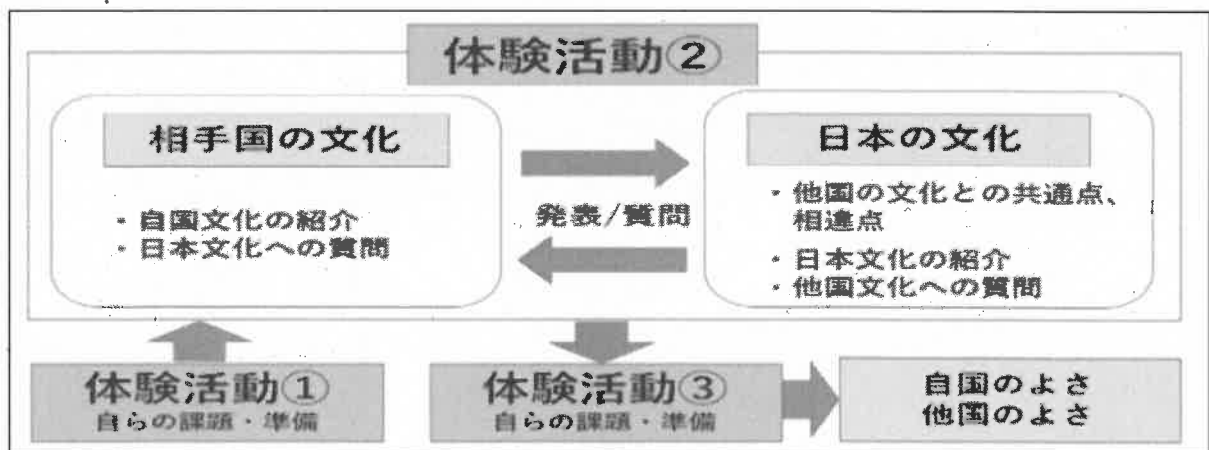
○調査研究の内容



【研究の構想】

本校が考える「外国人の人権と異文化の理解」とは、外国の人々に対する偏見や差別意識を解消し、外国の文化の多様性を受け入れることである。「共生しようとする態度」とは、国際的視野に立って一人一人の人権を尊重しようとする心構えのことである。そこで、本研究では左の研究構想図に示す児童の育成を目指すこととした。

体験活動①では、外国人への関心を深め、異文化に対する理解を促すこと（知識的側面）をねらいとし、前年度の交流事業の様子をDVDで視聴したり、交流児童参加児童の作文を読んだりする場の設定を行った。



体験活動②では、外国人との関わりから自らの在り方を考えること（価値的・態度的側面）をねらいとし、交流事業の姉妹校児童来日を活用した姉妹校児童との交流や（②-1）、外国人との交流会を行った。（②-2）。姉妹校児童との交流会では、相手国の文化と日本の文化との共通点、相違点に気づくような活動内容を考えた。「外国の人々や文化を大切にする心」の内面化、実践意欲を高めるために、教科などに関連させた取組を行った。

体験活動③は、外国人との関わりを通して、自分の在り方を考え、行動すること（技能的側面）をねらいとして、交流事業を活用した中国姉妹校訪問に向けた取組を行った。「考え、実感したこと」を適用して実際の場面で生かせるようにさせていった。総合的な学習の時間を中心に道徳科などを関連させた取組を行った。

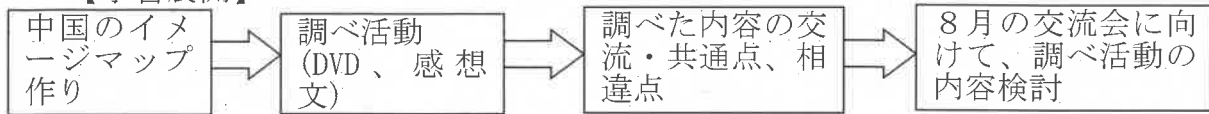
①調査研究の実際

ア【体験活動①】第5学年総合的な学習の時間「こんにちは、ニーハオ！」

【活動内容】「中国と日本の同じところと違うところを見つけよう」

前年度の中国姉妹校訪問の記録DVDの視聴や参加児童の感想文を読む活動を通して、中国と日本との共通点や相違点に気付き、外国の人々や文化について関心・意欲をもつ。

【学習展開】

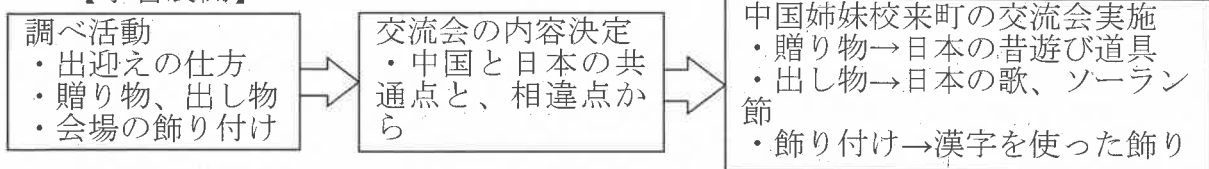


イ【体験活動②-1】第5学年総合的な学習の時間「こんにちは、ニーハオ！」

【活動内容】「中国姉妹校の友達に歓迎の気持ちを伝えよう」

調べ学習をもとに、中国姉妹校来町の際の交流内容を考えるとともに、交流会の場を通して、中国と日本との共通点や相違点に気付き、外国の人々や文化について関心・意欲をもつ。

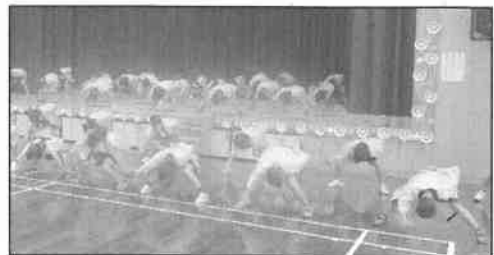
【学習展開】



【両国国旗を振って出迎え】



【贈り物の交換】



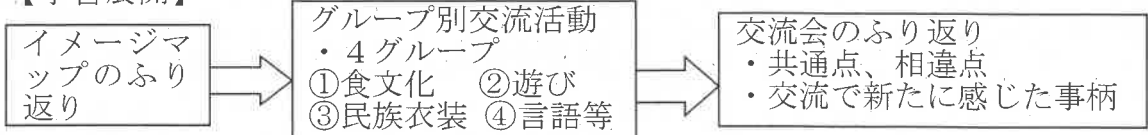
【築城小のソーラン節の出し物】

ウ【体験活動②-2】第5学年総合的な学習の時間「こんにちは、ニーハオ！」

【活動内容】「交流を通して、新しい発見をしよう」

外国の人々との交流活動を通して、外国の人々や文化について日本との共通点や相違点に気付き、お互いの国にはそれぞれの文化や風習・生活習慣等があることを理解する。

【学習展開】





【言語のグループ】



【民族衣装のグループ】

ワークシートの内容(抜粋)

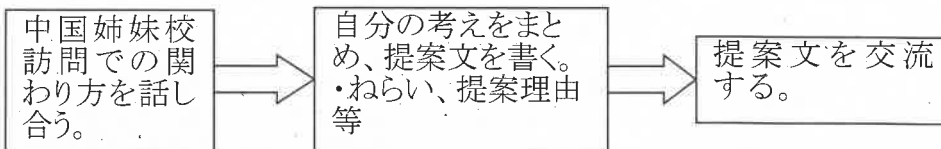
- ・中国と日本は違うところが多いけど、似ているところもたくさんあることに気づきました。
- ・中国のことをよく知ったので、今度は周りの人にどんどん広めていくことができると思います。
- ・次に交流する時は、お互いのよさを分かり合って交流し、前よりももっと近づけるようにしたいです。

エ【国語科】第5学年「明日をつくるわたしたち」(意見文)

【学習内容】「中国の人との関わり方を提案しよう」

総合的な学習の時間の学習を基盤にして、「中国の人との関わり方」について考え、どのようなことを行って中国の人々とのつながりを深めていくのかを提案する意見文を書き、中国姉妹校訪問に向けて自分たちにできることを話し合った。

【学習展開】



2.提案
 チェイナ服は中国の昔から「衣の王国」といわれている中国へのわたしたちの参加
 わたしたちは中国との交流会について行。八月二日に中国の方に来ていたとき、いっしょに交流をしてはどうだろうかまた、わたしたちは中国の人がどのようにくらししているのかを考えてはどうだろうか中国の方を楽しくふれ合うために、日本の文化やいいところを知ってもらうようにして、楽しいふれあふようなことを提案する。

2.提案
 1ヵ月に1回日本は日本のことを手紙に書き、中国へ送る。中国も同じように中国のことを書いた手紙を日本へ送る。
 1ヵ月に1回手紙のわたし合いを行う。手紙の内容は、日本など日本の伝統工芸や日本の食べ物を手紙に書き、中国へ送る。中国も同じような内容を書き手紙を日本へ送る。というふうに、たがいのことを知り合う。また、日本のみんなが、中国のイメージを良く見せたいから、次は中国だけでなく、アメリカやヨーロッパ、オーストラリアなど、世界各地の国々とも手紙をわたし合いのよさを少しでも、近づけるのではないだろうか。そこで「よりよい日本の社会のため」という点で、できることとして、このことを提案する。

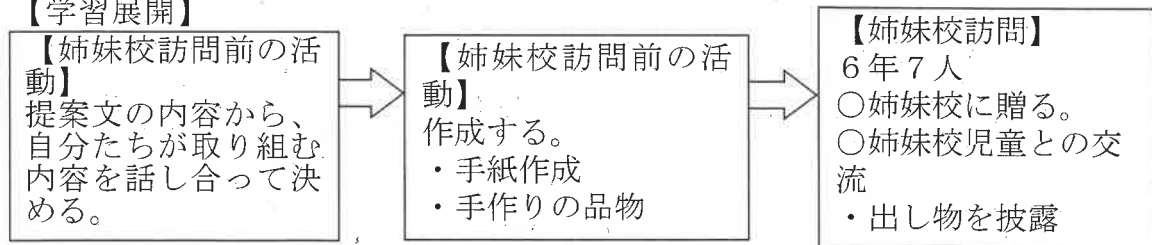
オ【体験活動③】第5学年総合的な学習の時間

「こんにちは、ニーハオ！」

【活動内容】「中国姉妹校の友達に日本のことを伝えよう」

国語科の学習をもとに、中国姉妹校訪問に向けた具体的な取組を決定し、活動を行った。

【学習展開】

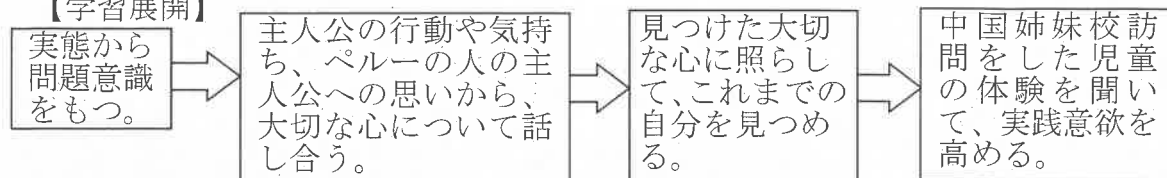


カ【道徳科】第5学年 主題名：世界の人々とつながるために【C-18 国際理解・国際親善】

教材名「ペルーは泣いている」（私たちの道徳）

【ねらい】外国のことを知る時はお互いの国の文化や習慣を理解していくということに気付き、外国のことをもっと知り、交流を深めていこうという心情を育てる。

【学習展開】



ワークシートの内容（抜粋）

- ・他の国の文化を知りたい。また、自分たちの文化を教えられるようにいろいろな事を学んでいきたい。
- ・僕が外国に行ったときその国の文化や歌など詳しく知りたいです。でも、知るだけでなく日本の言葉や歌など様々なことを伝え、お互いに理解し合う認め合う心を忘れないでいたい。

キ【体験活動①】中国姉妹校訪問報告会…5、6年総合的な学習の時間、1～4年その他の時間

【活動内容】「中国姉妹校訪問の活動を築城小のみんなに報告しよう」

中国姉妹校を訪問した代表児童7名の体験活動や感想等の報告を通して、中国との共通点や相違点に気付き、異文化についての理解を深める。

ク【体験活動②—2】第5学年 総合的な学習の時間「こんにちは、ニーハオ！」（外部講師3人）

【講演内容】「いろいろな国の歴史や文化を学ぼう」

講師の講話や体験活動を通して、中国以外の国との共通点や相違点に気付き、異文化についての理解を深める。

ケ【体験活動②—2】第5学年総合的な学習の時間「こんにちは、ニーハオ！」（外部講師3人）

【活動内容】「中国語でもっと交流できるようになろう」

次年度の中国姉妹校訪問等に向けて、中国語を話したり書いたりする活動を通して、より交流していきたいという意欲を高める活動を行った。